令和８年度第１回北栄町介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定委員会　議事録

日　時　令和８年１０月２２日（木）　午後１時３０分～３時１５分

場　所　北栄町役場大栄庁舎　３階　第１委員会室

出席者　委員　８　名（大西、日置、岩垣、岩床、倉本、中村、野間、平林）　欠席　５　名

事務局　５　名（鹿島福祉課長、池田包括支援センター長、川本室長、松井副主幹）

１　開　会

鹿島福祉課長

２　あいさつ

大西会長

３　議　事

（１）第９期計画に係る介護保険事業等の実施状況について〔資料１〕

●事務局から説明

別添資料１に沿って説明

●質疑、意見等

〇委員

P.１～３介護保険事業の実施状況ですが、１番（介護給付費の推移）の差し引きは計画から実績を引いた相差になってる。P.３の２番（高齢者の推移）３番（要支援・要介護認定者の推移）のところが、実績から計画を引いた数字で△（マイナス）になっていますね。

→事務局

そのとおりです。

〇委員

P.４の基金の第９期の令和８年度がマイナスなのは何ででしたか。

→事務局

今の計画で、２，８７０万円基金を取り崩して繰り入れる予算で今年度事業をスタートしておりますので、その見込みということです。

令和７年度までの実績では基金を取り崩しておりません。基金の積み立てができており、見込みでは崩すことにはならないだろうと思っております。

○委員

P.５脳活クラブが令和８年度１事業所増えたということですが、どこの事業所が増えたのでしょうか。

→事務局

包括支援センターの直営です。

○委員

P.２②（地域密着型サービス）と③（施設サービス）、何となくこれを見ると、地域密着型サービスから施設サービスに利用者が流れたのかなという具合に推測するのですが、その辺りは何か分析されていますか。

→事務局

この②と③ということですが、②の計画値に対するところで、主にグループホームの実績の推移は、ある程度同じような額で推移しております。施設サービスが増えた要因として、給付費の方を見ますと、特別養護老人ホームの利用は令和６年度以降さほど変わってはいません。在宅に復帰するサービスというところで、老健の利用が増えていると考えております。

○委員

何度かでてきましたけども、「いいね！北栄町体操！」ということで、働き世代の人達の運動習慣啓発ということなんですけども、男性はこういうのは参加が少ないように感じていますが、参加者の男女比とかは分かりますか。男性が参加しやすい場作りっていうのもあってもいいのかなと思っての質問です。

→事務局

なかなか男性は集う場には出て来られないという現状があって、アプローチはするんですけど、やはりなかなか出て来られなかったりする。本人様の得意なこととかを活用しながら、講師役とか、何かそういう形でいわゆる役割があると男性が参加しやすいのかなという気がしています。今年は、男性に工作教室の講師になっていただいて、そういう場を作ってきていますが、なかなか男性参加者の増加は難しいところで、逆に良いアイディアがあればいただきたいなというところでございます。

→事務局

男女比まではさすがに抑えてないところですが、出前講座以外にも、先日はある自治会でぜひ区民に対してやって欲しいということで、そこには幅広い世代の人がいらっしゃいました。男性もいらっしゃいました。そして、「いいね！北栄町体操！」は北栄町歌に合わせ

て体操するということで、皆さんに町の歌を知っていただき、馴染んでいただく、こういうところから地道な積み上げをしていって、男性も含めた幅広い層に浸透していくことを狙っていきたいと考えております。

〇委員

もう１点、もしかしたら社協の方かもしれないですが、P.１１の「あったか♡まごころサービス」で、令和６年度からの活動回数がすごく増えてるんですけども、活動者が令和６年度は１１人、令和７年度９名ということで、活動回数に対して活動者が減ってるところに対しては、大丈夫なのかなと思いますがいかがでしょうか。

→事務局

こちらについては、生活支援サポーターという養成講座を受けていただいて、その養成講座を修了していただくことことで登録制度を設けています。利用者から、こういう困りごとが出てきたので対応してもらえますかという相談が入ると、生活支援コーディネーター社協の職員さんが生活支援サポーターのマッチングを行います。その際に、やはり登録者が多くないと難しくなってくるので、昨年度はちょっと生活支援サポーター養成講座が開催できなかったのですが、今年度は生活支援サポーター養成講座を開催し、６名に修了していただいてますので、何とか活動していただけるのではないかと期待をしております。社協と今後の生活支援サポーターの養成をどうするか、しっかり協議していきたいと思っているところです。

〇委員

今の「あったか♡まごころサービス」で私も疑問が１つありまして、相談件数に対して実際の利用者さんがちょっと少ないのですが、その利用に至らなかった方達は、他の方法か何かで、困りごとは解決していると思っていいですか。

→事務局

実際に「あったか♡まごころサービス」まで繋がったケースがこの数値で、そこまで至らないケースもあったり、後は介護保険サービスやその他のサービスを紹介されたりとかして、放っておく訳ではなく、解決の方向に至るように、別のサービスを利用されていると理解してもらったらいいかと思います。

〇委員

P.１８の高齢者見守り体制促進事業で、一人暮らしの人対象で ICT 機器を活用した見守りサービスとありますが、具体的にはどういった機器になりますか。

→事務局

こちらは、ヤマト運輸さんが提供するクロネコ見守りサービスというサービスで、「ハローライト訪問プラン」と言いまして、ご家庭に通信機能付きの電球を設置して、その点灯があるかないかを見て、24 時間点灯消灯がなかった場合には、事前に登録した通知先にメールが届くようなサービスです。

→委員

これには、対象が非課税世帯という要件はありませんか。

→事務局

対象者の年齢が要件を満たしていれば大丈夫です。町内在住の７０歳以上のお一人暮らしの高齢者を見守りたいご親族等に対して支援するものです。将来的な利用者負担が出てくる制度設計になっています。最初の６か月間の利用料の助成を行い、それ以降については、利用者様の負担という形をとっております。

〇委員

補聴器補助金は、年齢制限とかはありますか。

→事務局

補聴器につきましては、６５歳以上が対象で、聴力レベルや課税状況等加味したところでの要件となっております。

〇委員

P.１７のいきいきサロンがこんなに増えた。喜ばしいことだと思いますが、何か要因があるんでしょうか。

→事務局

第８期についてはコロナ禍にありまして、コロナの時は、自粛が続いていた状況でした。今の数字は、コロナ前の状況に戻ってきたという具合にご理解いただければいいのかなと思います。

→委員

減っていくんじゃないかというような、何かそういうニュアンスがあったもので。特に過疎地域とか。なかなか難しいということも聞いたりしたもので。

→委員

ボランティアの方が運営されたりとか、自らが運営されたりとかいろんなやり方がありまして。なるべく自分たちのために自分たちでやるというのが、一番ある意味では長続きしていくのかな。そういう自らが運営して続けるのが本当に良いのかなと思います。

（２）第１０期計画の検討状況について

・在宅介護実態調査〔資料2-1〕、介護保険日常生活ニーズ調査について〔資料2-2〕

●事務局から説明

別添資料２－１、２－２に沿って説明

●質疑、意見等

○委員

資料２－２、P.４介護予防の（７－１）で、昨年と比べて外出回数が減っている理由として、「外での楽しみがない」というところがある。何か具体的なことで、どういったことがあったら良いとか、そういうようなことって何かありますかね。具体的にこの辺り、今後の政策に広げて生かすとしたら、今度この辺りかなと思いまして。

→事務局

おっしゃる通りかと思います。

今回の調査項目としては、減っている理由を聞かせていただいたというところまでで留まっております。

○委員

率直な感想として感じたのが、北栄町の高齢者は、趣味が結構あるなと。こんなにたくさんあるかなと思いながら、この結果はとてもいいことだ。

・第１０期計画について〔資料３〕

●事務局から説明

別添資料３に沿って説明

●質疑、意見等

○事務局

補足的な部分にはなってくるが、第１０期の案を作るにあたっては、ベースになるのは今説明した国が示しているものが基本にはなってくる。それと、町が今まで進めてきた予防の取り組みを強化していく。これが一定程度効果を発揮して、認定率も低く抑えられてきているというところもありますので、ここを大きく変えていくということではございません。

しかしながら、ここから先は、意見交換でご意見を頂戴できればと思いますが、国が想定しております様々な背景の中には、例えば、頼れる身寄りがない高齢者に対する対応とか、

そういったところも盛り込まれておりますし、事業の部分では社会福祉協議会と協議が必要なものもあったりします。そういったものにも当然対応していかないといけません。町の機能としても、その辺りしっかりリサーチをしていきながら、例えば、何らかの新しい事業を設けられるだとかそういったことがあれば、意見交換をさせていただいて、そのサービスをどれぐらいの人が利用され、介護保険の方も、これぐらい変わってくるというような予測を立てるに当たって、情報をいただければ、次にお示しする資料は、より精度の高いものになってくるのかなと考えております。

〇委員

今後、新しい事業を設けるような話が出てくれば、報告をさせてもらいますし、その時は、潜在的なニーズとか、分かってくればまた情報を頂ければと思います。

〇委員

サービス提供体制については各事業所の色んな事情もあって、今後、現状とは少し変わってくる部分あるのかなとは思っております。そういう中で、今後３年間の北栄町の提供体制が確保できるような仕組みを考えていく必要があるのかなと思っております。

現状、現在の体制では、とりあえず何とか回ってるという理解でよろしいのでしょうか。

→事務局

そうですね。しっかり必要な人に必要なサービスが提供できているという認識でおります。それから、最初の方にお話をさせていただいておりましたが、第９期では若干の長期の予測の読み違いはあり、在宅の人を増やしていこうという流れからはちょっとズレてはきておりますが、全体としては回っていて、しかも基金を取り崩すことなく回せているということを考えると、想定した通りに回っているというのが今の現状かと思っております。

〇委員

介護人材確保ということで、どこの事業所さんもそうだと思いますが、日本人を中心に今まで雇用していたんですが、鳥取県の専門学校も縮小で１クラスになり、結果、若い人はもう介護士にならないということで、今、外国人材がすごく増えてきております。私の法人はまだ０人ですが、介護従事者がすごく高齢化してきていて、６０代の職員さんもすごく多いですし、平均年齢も５３歳ぐらいです。なかなか本当に今後マンパワーがなくなってきたというような感じで、この数年先、介護人材確保すごく難しいと思っています。

国が ICT 化して少しでも楽ができればということにシフトしているんですが、６０代の職員さんに iPad を使ってというのも、なかなかストレスになったりして、介護施設の大半はもう本当に死活問題です。先日、全国の老健施設のアンケート結果が出まして、全国のう

ちの老人保健施設の約半分が赤字ということになっていますし、大きな病院やクリニックや診療所で言えば、もっと、７割８割は赤字体制ということになっていまして、本当に法人が継続してやっていく事がすごく難しい時代にきていると思っております。

もし、外国人をうちの法人で雇うということになると、北栄町は住宅の問題がある。アパートがなかなか見つからない状況。倉吉に住んでもらっても、免許が無いので、列車など公共交通機関を使って来れる場所でないといけない。北栄町は、外国人の誘致がすごく難しいなと思っています。

この駆け込み需要で、毎日私の会社にも１０社ぐらい、そういう外国人を紹介しますという団体から連絡がたくさんあります。直接外国の方本人が、「私、日本で働きたいです。」と電話してくる事もすごく今増えています。

→事務局

駅から離れたところにあるような事業所では、JR から降りてこられる労働者を送迎しておられるようで、本当にいろいろご苦労されておられると感じています。

町がそれぞれ何ができるのかと考えると、先程、例えば住まいの問題、空き家もたくさんありますので、そういったところを紹介したり、マッチングしたり、色々なことが想定できるのかなと考えております。その辺りは実情に合わせて相談できたらと思います。

本当に切実な問題だと考えておりますので、また引き続き情報交換させていただければと考えております。

４　今後のスケジュール

●事務局から説明

レジュメに沿って説明

●質疑、意見等

特になし

５　閉　会